

よしきい

2020年1月26日



目次

- 公園の風景
 - ハヤブサ 1
 - 空からの訪問者 Ⅲ 1
- Sさんカエル池をつくる その③ . . . 2
- みんなのひろば
 - 2：8の法則 2
- 活動紹介
 - クリスマスリースは力作揃い . . . 3
 - クロツラヘラサギ環境整備隊? . . 3
 - 新年会と全体ミーティング . . . 3

発行：「葦の会」

編集：機関紙チーム

事務局：〒754-1277

山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030

FAX 0836-66-2031

～ ご一緒しませんか～

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= ハヤブサ =

今年の子年。では、ねずみ色をした地上最速の生物はなんでしょう？ヒントは東北新幹線、小惑星探査機、廃線になってしまった寝台特急もおなじみです。そう、答えはハヤブサ。急降下時は時速 350km 以上にもなるそうで、特にオスより一回り大きいメスが一直線に飛ぶ姿はまるで弾丸のよう。公園にもやって来てムナグロやコサギはもちろん、自分より大きな鳥も捕ります。狙われた干潟の鳥たちは一斉に飛び立ち、てんやわんやの大騒ぎで逃げていきます。立ち姿も堂々としていて、よく周防大橋のてっぺんでじっと獲物を探して山口湾を見張っています。高いところにとまるのがスピードを生かした狩りを成功させるコツです。そんなザ・猛禽類なハヤブサ、じつはワシやタカの仲間よりインコやスズメの仲間に近いのだとか。大きな丸い目に、ニッカボッカをはいているような足…。ほら、よく見るとかわいらしく見えてきませんか。古代エジプトでは神様でもあるハヤブサ。手をあわせて今年もよろしくお願いしまウス！



= 空からの訪問者 Ⅲ =

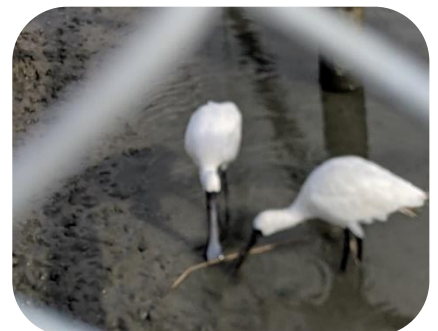
クロツラヘラサギの保護ケージができて1年と少し。まだ傷病クロツラヘラサギは現れない。朝鮮大学校からのレンタルバードのクロツラヘラサギ2羽は、公園の北の端っこにポツンとある保護ケージの中で仲良く暮らしているようだが、飛来してきた他のクロツラたちのように外を自由に飛び回ることはできないのが少し不憫である。



1月初旬の青空に恵まれた穏やかな日、彼らの様子を見にケージを訪れた。大きい方は当初7歳と聞いていたが実際は4歳くらい、小さい方はまだ1歳くらいの幼鳥で両方とも雌だそう。2羽はしゃもじのような形の黒い嘴を水の中に突っ込んで左右に振る独特のしぐさで餌を探したり、羽繕いをしたり。そのうちに大きい方が餌箱に入っている魚を食べ始めると、小さい方は反対側に歩いて行く。敷いてある葦の茎から好みの1本を選んで抜き取り、水場に戻って洗うようなそぶりを見せた。何度か取りに行っても同じことを繰り返していたが、興味を持っ

て近寄ってきた大きい方に茎を取られそうになると、クワックワツと鳴いて抗議するのが何とも可愛らしい。毎日この2羽の面倒をみている園長によると、これは自分で考えた遊びであるらしい。その後は熱心にお互いを羽繕いしあっていて、ほほえましい限りだ。

昨年10月中旬の2羽の飛来を皮切りに、山口湾には現在22羽のクロツラヘラサギが観察されている。春になっても朝鮮半島に帰って行かず山口湾で越夏し、時々ケージを訪問していた1羽（おそらくは雄）は、今でもやって来て大きい方のクロツラとご対面しているようだが、金網の内と外ではどうしようもない。そのうちに諦めて行ってしまうのか、これまた不憫なことである。



Sさん カエル池を造る . . . その③

2018年4月

冬眠から覚めたカエルたちが、ちらほら私の掘った池へやってくる。種類はヌマガエルとツチガエル。サギに食べられないよう、よしずをかける。



5月末

田植えシーズンの到来。
毎日朝夕、産卵をしていないかと池を覗く。



6月8日

前日の夜、池の周りでカエルの雄が雌を呼ぶラブコールが聞こえたので、もしかしてと思いつつ覗くと、あった！黒い点々の入ったゼリー状の卵があちらこちらの水草に付着している。嬉しくてワクワクドキドキです。

(次号に続く)

みんなのひろば😊

2:8 の法則

働きアリを観察すると、一生懸命働いているのはそのうちの約2割、その周りをワッショイしているだけの6割、全く何もせずサボっているのが2割程度いるとか。けしからん連中だからと、働かない8割を排除し少数精鋭の2割だけで集団を組ませると、またも2:8の割合でせっせと働くアリとそうでないのに分かれる。それではと、何もしていない8割で集団を組ませたら餓死するだろうと思っても、あにはからんや、またまた2:8になるという。

なぜそうなるかはわかっていないというが、何億年と命を繋いできた生物の知恵なのだろう。人間社会にも当てはまりそうな示唆的なお話です。



活動紹介

= クリスマスリースは力作揃い！ =

“クリスマスリースを作ろう”は昨年末の12月14日(土)の午前・午後で開催されました。親子孫の三世代の方々が同じ制作台で、予め用意されたクズのツルで作った輪を、多種類の枝葉、木の実で飾っていきました。子供たちの発想にハッとしたり、作り手の個性を感じたり……。完成したリースを持ち帰る時の皆さんの笑顔、会場作りや材料調達に奔走した葦の会メンバーは「やったー！」感としてうれしく頂きました。



今回は参加申し込み開始と同時に定員に達しうれしい悲鳴を上げましたが、その後の申し込みの電話をお断りしなければならなくなった受付窓口の方々にはストレスとなったことでしょう。

しかし当日は連絡なしでの欠席や10名を超えるグループの45分遅れの参加などもありました。募集要項の工夫を考える必要があります。

= クロツラヘラサギ環境整備隊？ =

環境サポートチームを中心に、葦の会の面々はクロツラヘラサギ保護ケージ内に石垣を造りました。お陰で景観が和むとともに、石垣の隙間にクロツラヘラサギの好物であるエビや小魚などの増殖も期待されると聞いて、重たい石



を運んだ足腰も軽くなったような気がしています。今後もエビ養殖池造成に向けて保護ケージ周辺のヨシ刈りをしたり、水路を整備したりと、春に向けて忙しくなりそうです。環境サポートチームがクロツラヘラサギ環境整備隊もしくはエビ養殖隊と改名する日が近いかも？ 昨秋にはクロツラヘラサギのための倉庫がカラーコーティングされ、今回はケージ内に美しい石垣もできました。少しずつクロツラヘラサギたち周辺の環境が整ってきつつあります。

= 葦の会 新年会と全体ミーティング =

1月12日(日)に行われた恒例新春昼食会に、今年はこれまでで最多の19名の参加があり、ぎゅうぎゅう詰めの多目的室で和気あいあい、みんなで美味しいお弁当をいただきました。

午後からの全体ミーティングでは、活動の中間報告と「ふれあいまつり」「クリスマスリースを作ろう」の振り返りを行い、今後の改善点や対策を話し合いました。その後台湾研修旅行に参加した会員から現地のクロツラヘラサギの状況などについて話を聞きました。(詳細はビジターセンターの観察ホールにパネル展示してあります。)

<編集後記>

新元号のもとで迎えた初めての新年。例年通り2日・3日に臨時開園した公園には家族で来園くださる方々の姿が見られました。氏神様への初詣と共に、公園詣で自然界の動植物から英気をもらうのは如何でしょうか。

葦の会は今年も元気に活動していきます。

(T. M)